

氏名	前 田 剛
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2627 号
学位授与の日付	平成 5 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	サルコイドーシス肺リンパ球の <i>Propionibacterium acnes</i> に対する反応性に関する研究 第 1 編 <i>P. acnes</i> に対する反応の特異性に関する検討 第 2 編 <i>P. acnes</i> に対する反応性と臨床検査との相関
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

サルコイドーシス(サ症)の病巣より *Propionibacterium acnes* (*P. acnes*) が高頻度かつ高濃度に分離培養され、サ症肺リンパ球が *P. acnes* 刺激により幼若化の亢進を起こすことが報告されている。この幼若化反応が *P. acnes* に特異的な反応か否か、又肺サ症の活動性の指標となりうるかを検討した。第 1 編では、サ症患者の肺及び末梢血リンパ球の *P. acnes* 刺激による幼若化反応と *Nocardia rubra* (*N. rubra*), *Streptococcus pyogenes* (*St. pyogenes*) の細胞壁成分に対する幼若化反応について比較検討した。*P. acnes* 刺激による未治療サ症 12 例の肺リンパ球の幼若化率は、 1.89 ± 1.45 で、*Nocardia rubra* 添加の 0.87 ± 0.47 , *Streptococcus pyogenes* 添加の 0.64 ± 0.30 のいずれに比しても有意に高値であった。末梢血リンパ球はこれら 3 種の細菌壁成分に反応を示さなかった。以上よりサ症の肺リンパ球は *P. acnes* に特異的に感作され、本症の病態への *P. acnes* の関与が強く示唆された。第 2 編では未治療サ症 34 例について幼若化反応と臨床検査成績との相関を検討した。幼若化反応の亢進は気管支肺胞洗浄液中のリンパ球数 ($p < 0.05$), 特に CD4(+) T 細胞数 ($P < 0.01$) の増加と強い相関が認められた。血清 ACE 活性, BALF 中リンパ球数, 肺 Ga シンチグラフィーの 3 種類の検査のうち全てに異常を示した症例では幼若化反応は健常者あるいは O 項目異常例に比して有意に亢進していた。以上より、肺リンパ球の幼若化反応の亢進が肺サ症の活動性を反映していることが窺われた。

論文審査の結果の要旨

本症はサルコイドーシス（サ症）肺リンパ球が *P. acnes* 刺激により幼若化の亢進を起こすがこれは特異的な反応か否か、又肺サ症の活動性の指標となりうるかを検討したものである。*Nocardia rubra* などを対照としたところサ症の肺リンパ球は *P. acnes* に特異的に感作され、肺リンパ球の幼若化反応の亢進が肺サ症の活動性を反映していることが明らかとなった。これは価値ある業績であり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。